

みんなのいっせんぼくビジョン

令和7年1月

きさらづ地域循環共生圏
ネットワーク本部
里山再生部会

目次

1. 背景と目的.....	1
2. 対象地域について	
(1) ハンノキ湿原周辺の位置.....	2
(2) ハンノキ湿原について.....	3
(3) 湧水いっせんぼくについて.....	4
3. 現状と課題.....	5
4. 課題解決に向けて.....	6
5. 具体的な取り組み	
(1) 具体的な取り組みを導き出すための分析.....	7
(2) 目指す将来像及び事業体系.....	8
(3) 将来像に向かうための4つの方策	
(4) ハンノキ湿原周辺地域ゾーニングマップ.....	10
6. 森林整備の促進.....	12
7. スケジュール.....	13
8. 構成メンバー.....	14

1. 背景と目的

本市が掲げる「オーガニックなまちづくり」をステップアップさせる重要な柱として「きさらづ地域循環共生圏」の創造を掲げ、多様化・複雑化する地域課題に対応し、地域の持続力を高める視点から「里山の再生」、「資源循環の促進」、「食・有機農業」、「再生可能エネルギー」、「里海の活用」の5つのテーマを設け、18の取組を体系的に整理するとともに、令和6年4月に「きさらづ地域循環共生圏ネットワーク本部」を設置し、取組を進めるための体制づくりを行いました。

その中の一つである「里山の再生」へ取り組む部会として、里山再生部会が発足し「ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用」及び「森林整備の促進」の2つに取り組むことになりました。

里山再生部会では、『里山の再生』の第一歩として、富来田地区にあるいっせんぼくを含むハンノキ湿原周辺の市有地約2.6ヘクタール及びその周辺の森林の環境整備の取組を進めるにあたり、今後の方向性を示すビジョンを策定しました。



2. 対象地域について

(1) ハンノキ湿原周辺の位置

富来田地区は木更津市の東部に位置しており、北は袖ヶ浦市、東は市原市、南は君津市と接しており、ハンノキ湿原はJR久留里線の馬來田駅から約2.1kmの位置にあります。

ハンノキ湿原周辺の地域については、民間業者により整備されたメガソーラ一発電所の影響を考慮し、「周辺環境保全」を目的とした地元住民からの要望を受けた土地の所有者から市に対して寄附の申し出があり、平成29年6月23日に市有地となりました。

<木更津市全体図>



<位置関係図>



(2) ハンノキ湿原について

ハンノキは日本や東アジアに自生する落葉広葉樹で、高さ15～20m、湿地や河川敷に生育しており、春に葉が早く出ることから名前が付けられ、耐寒性があり育てやすい樹木です。

花言葉は「独立」や「自立」で、自身で生きる力を象徴しています。

ハンノキ湿原の周囲には、「ツリフネソウ」や準絶滅危惧種に指定されている「ギンイチモンジセセリ」などの植物、千葉県では要保護生物に指定されている蝶の「ミドリシジミ」などのほか、希少な野鳥や魚類貴重な生物が生息しています。

<ハンノキ湿原>



<ツリフネソウの群生>



写真中央に咲くピンク色の花

(3) 湧水いっせんぼくについて

「湧水いっせんぼく」は、ハンノキ湿原から木道に沿って奥へ進むと突き当たった場所に位置しています。

湧水地「いっせんぼく」という不思議な名前の由来は、いくつもの湧水がボクボクと湧きあがっていたことから、そう呼ばれるようになったと言われています。

<位置図>



<いっせんぼく>



3. 現状と課題

武田川の支流である稲作の水源として自噴する湧水が、こんこんと湧き出ている「いっせんぼく」やハンノキ湿原などの自然を楽しめる散歩コースとして地元の人々だけでなく、市外からの来訪者にも親しまれています。

一方で、ハンノキ湿原周辺の維持管理に携わる人々の高齢化や担い手不足に伴い、人の手が入らなくなったことにより荒廃化が進み、地域の生態系や環境に悪影響を及ぼしています。

また、このような場所は、有害鳥獣の生息場所となり、有害鳥獣による農作物被害が増加しているだけでなく、地域住民の生活に対する脅威にも繋がっています。

さらに、森林自体についても成熟・高齢化が進んでおり、間伐や伐採、植林といった適正な管理が必要とされています。

このほか、「令和元年房総半島台風」をはじめとする自然災害により倒竹木の発生や放置竹林の森林への侵食などにより里山をとりまく環境の悪化が深刻化しています。

<ハンノキ湿原周辺の現在の様子>



周辺は倒竹木により荒廃している。

令和6年夏に、腐食し通行するには危険であった木道の一部を補修した。

4. 課題解決に向けて

前項の課題解決に向け、周辺環境整備を図るとともに、継続的な維持管理や森林資源の有効活用などの取り組みを進めることが重要であり、地域内外の様々な主体と連携し環境・経済・社会の自律的好循環を生み出す仕組みづくりが求められています。

本ビジョンは、里山再生に向けて具体的に取り組む当面の期間として、令和6年度から令和10年度までの5年間の活動内容を示すものとし、現状調査の結果や環境の変化により必要に応じて適宜見直します。(別記7. スケジュールに記載)

5. 具体的な取り組み

(1) 具体的な取り組みを導き出すための分析

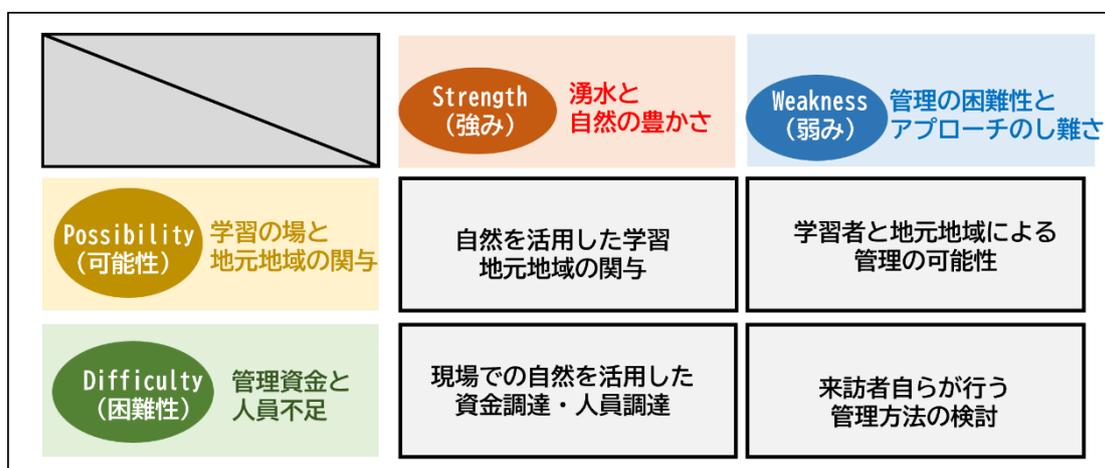
里山再生部会において、ハンノキ湿原周辺地域の再生・活用の方策について、ワークショップ・ウェブアンケートなど協議を重ね、様々な意見を客観的な観点から出し合いました。

その結果として、湧水と自然の豊かさが強みとして挙げられ、予算・人員を含む管理の困難性といっせんぼくへのアプローチのしにくさが弱みと挙げられました。可能性としては、自然（いっせんぼくを中心）を舞台としたこどもたちの学習の場と地元地域が関与する活用があげられ、管理の資金と人員の不足の困難性が挙げられました。

これらをクロスSWPD分析したところ4つの方針が見えてきました。

- ① 自然を活用した学習、地元地域の関与
- ② 学習者と地元地域による管理の可能性
- ③ 現場での自然を活用した資金調達、人員調達
- ④ 来訪者自らが行う管理方法の検討

<クロスSWPD分析図>

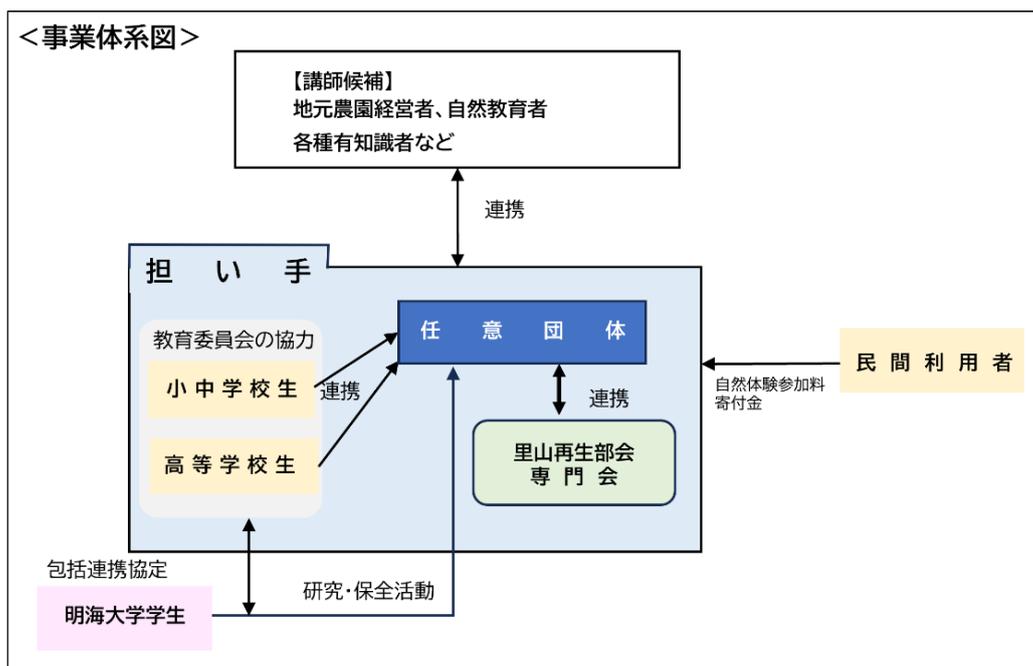


(2) 目指す将来像及び事業体系



ここまでの検討を踏まえて「いっせんぼく」を中心としたハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用の将来像を「次世代につなぐいっせんぼく」と決めました。水源を楽しむ散策路を整備し、湧水が生み出す希少な花などの自然環境の大切さを地元のこどもたちが学び、みんなで守り、豊かな地元愛の醸成を促すことで持続可能な里山を目指します。また、訪れる人々に自然の美しさを体感してもらえる場を提供します。

なお、このような環境を整備し維持するにあたり、事業体系図に示すとおり地域が中心となった任意団体を設立し、各種有識者と連携を図り、小中学校や高等学校及び大学と協力して保全活動を行うとともに、資金調達に向け民間利用者へのアプローチに取り組みます。



(3) 将来像に向かうための4つの方策

将来像に向かう具体的な取り組みについて4つの方策として整理しました。

① 環境整備

- ・ **湿原管理整備**(児童、生徒、学生、地区の人)
外来植物等の駆除、植物等の名札付け
- ・ **水路維持整備**(地区の人、学生等)
いっせんぼくと水路維持整備、外来種の駆除
- ・ **森林整備事業**
倒竹木や放置竹林をウッド、竹チップ化
- ・ **木道修繕整備事業**
既存の木道修繕、新たな木道整備

② 自然環境保護教育

- ・ **児童・生徒・学生に対する湿原整備教育**
外来植物等の駆除(湿原・水路)
自然動植物の観察
植物等の名札付け
- ・ **自然観察会**(ビオトープ、野鳥)
自然観察セミナーの開催
- ・ **在来植物等の保護、育成**
ツリフネソウなどの育成・研究

③ 収益事業

- ・ **有料自然環境セミナーの開催**
ビオトープ観察会、野鳥観察会、里山体験会
- ・ **里山再生体験ツアー**
竹木の伐採、草刈り、植栽の体験
- ・ **民間事業者からの自然保護に関する寄付**

④ 担い手の育成

- ・ **統括管理、事務管理の組織作り**
地域を中心とした、任意団体を設立し、
組織的な運営
- ・ **学校事業による管理整備**
児童・生徒・学生の自然教育授業

(4) ハンノキ湿原周辺地域ゾーニングマップ

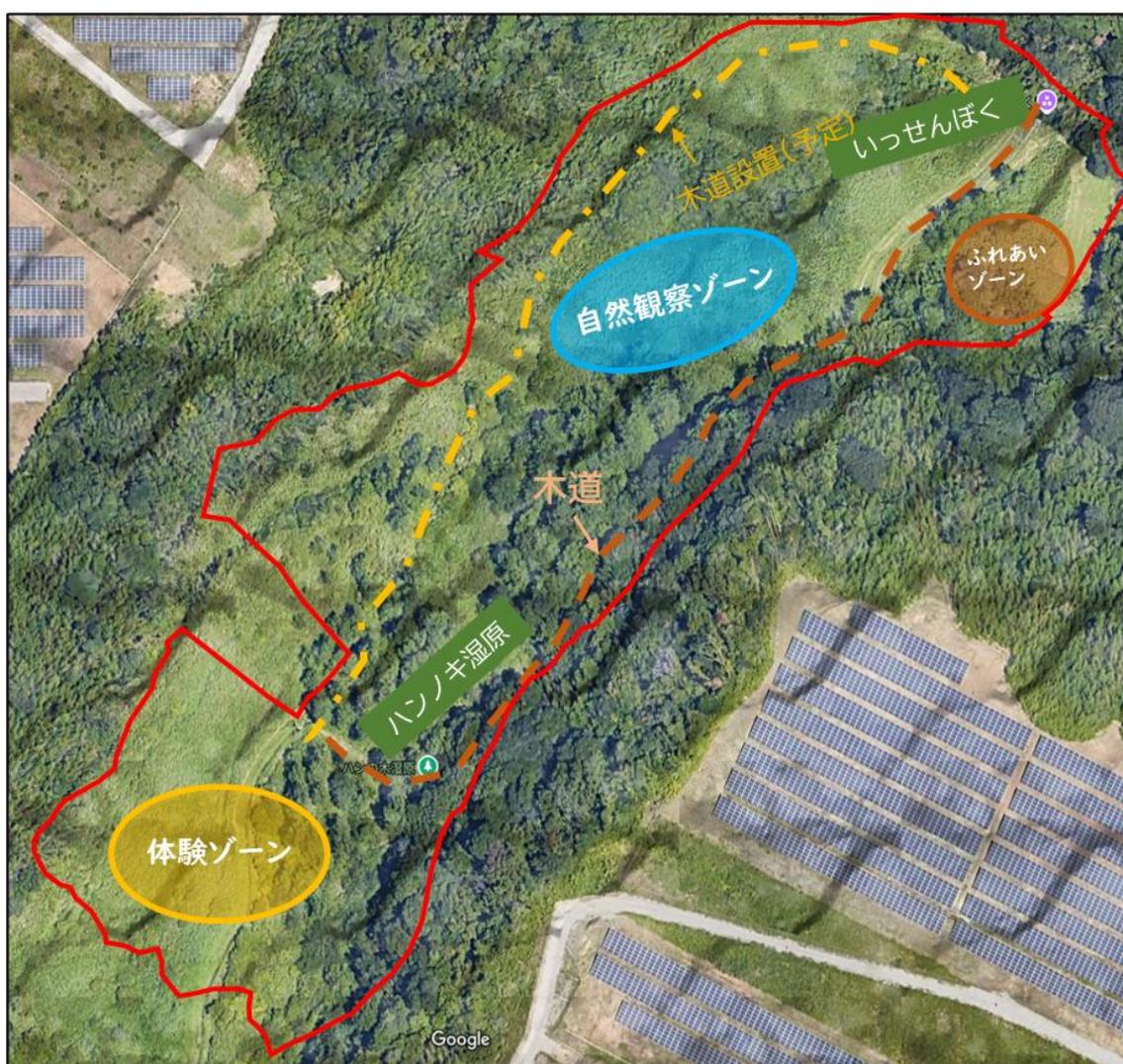
今後の里山再生に取り組みに向けて現状の特性を考慮し、ハンノキ湿原周辺地域を自然観察ゾーン、体験ゾーン及びふれあいゾーンの3つに設定します。

自然観察ゾーン：自然豊かな里山の情景を保ちつつ環境整備を行い、こどもたちへの自然教育の場として自然観察などに取り組みます。

体験ゾーン：里山ならではの体験が出来る、竹木の伐採や草刈りなどの里山再生体験ツアーを中心とした事業を行います。

ふれあいゾーン：来訪者の憩いの場として休憩ができる空間を作り維持します。

<ゾーニングマップ>



自然観察ゾーン

- ① 環境整備として、外来植物の駆除・湿原・森林・竹・木道の整備や修繕等を行います。
- ② 自然環境保護教育として、児童・生徒・学生に対する湿原整備の教育の場、自然環境を観察し、在来植物などの保護や育成を行うなどの教育の場を整備します。
- ③ 収益事業として、ビオトープ観察や野鳥観察などの自然観察ツアーなどのイベントを行います。
- ④ 担い手の育成として、地域住民による任意団体を中心に、児童・生徒・学生が自然教育授業などを通じて地域をサポートする体制の構築に取り組みます。

体験ゾーン

- ① 環境整備として、湿原・森林・竹の整備を行います。
- ② 自然環境保護教育として、児童・生徒・学生が土、水、草、木にふれあい里山を実感できる場の整備を行います。
- ③ 収益事業として、竹木の伐採や草刈りなどの里山再生体験ツアーの開催を中心とした事業を行います。

ふれあいゾーン

来訪者の憩いの場となるように、ベンチなどを設置し休憩スペースを整備します。

6. 森林整備の促進

森林整備については、ハンノキ湿原周辺の整備に向けて地権者と協議を行い、試験的な間伐を進めます。また、伐木や伐竹などの発生材については、地域内資源としての利活用を目指し、チップ化や堆肥化に取り組みます。

<修繕前の木道の状況>



<修繕後の木道の状況>



<倒竹木>



7. スケジュール

活動等項目	R 6				R 7				R 8				R 9				R 10							
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3				
1 環境整備	倒木竹の撤去																							
	木道・休憩場所損傷箇所の補修																							
					土地所有者、水利組合など関係者との関係維持																			
									水路の維持補修															
													迷惑竹、危険木の伐採・間伐材の再利用											
																	外来種（セイタカアワダチソウ、クレソン）植物等の防除							
																					在来植物等（ツリフネソウ、セリ等）の再生			
2 自然環境保護教育	倒木竹の撤去																							
									竹炭化・チップ化（中・高校生）															
					自然環境調査（ハンノキ湿原周辺）																			
					植物等の名札付け（小学生、中学生）																			
													校外学習（動植物の観察・講師派遣依頼＝小学生）											
					自然観察セミナー（ビオトープ・野鳥）																			
																	在来植物等（ツリフネソウ、セリ等）の育成・研究							
3 収益事業					収益事業の検討																			
									民間事業者からの自然保護に関する寄付															
													自然観察ツアーの実施											
																	里山再生体験（倒竹木、放置竹林の伐採、草刈りなど）							
4 担い手の育成・確保					任意団体の立ち上げ・担い手確保																			

8. 構成メンバー

きさらづ地域循環共生圏ネットワーク本部 里山再生部会 部会長：木更津市資産管理部長		R6.12 現在
① 富来田まちづくり協議会	② (一社)木更津市観光協会	
③ (株)ユニ・ロット	④ (一社)くすのき自然クラブ	
⑤ 千葉県森林組合	⑥ おとずれ山の会	
⑦ きさらづ里山の会	⑧ 木更津市観光ブルーベリー園協議会	
⑨ (特非)一粒舎	⑩ 木更津工業高等専門学校	
⑪ (株)ホテル三日月	⑫ 明海大学	
⑬ (株)KURUKKU FILDS	⑭ 日本野鳥の会 千葉県	
⑮ 木更津市農業委員会	⑯ 木更津市史委員	
⑰ クローバー建築(株)	⑱ (有)愛宕	
⑲ 木更津市議会		
木更津市		
資産管理部財産活用課（事務局）	資産管理部営繕課	
環境部資源循環推進課	経済部農林水産課	
経済部観光振興課	教育部学校教育課	

里山再生部会 専門会一覧	
自然環境調査（動植物）	森林整備・木道修繕
環境整備	収益事業



HP きさらづ地域循環共生圏

<https://www.city.kisarazu.lg.jp/soshiki/kikaku/organiccity/1/8865.html>

HP 里山再生部会取り組み状況

<https://www.city.kisarazu.lg.jp/soshiki/kikaku/organiccity/1/10968.html>

